

前コミュニケーションスキルの発達とその背景因： HBC Study

著者	原田 妙子, 浅野 良輔, 奥村 明美, 釘寄 ゆめの, 鈴木 由紀子, 中原 竜治, 中安 智香子, 山下 真菜, 武井 教使, 土屋 賢治
雑誌名	DOHaD研究
巻	4
号	1
ページ	82-82
発行年	2015
URL	http://hdl.handle.net/10271/2956

前コミュニケーションスキルの発達とその背景因 : HBC Study

原田妙子¹、浅野良輔¹、奥村明美¹、釘寄ゆめの¹、鈴木由紀子¹、
中原竜治¹、中安智香子¹、山下真菜¹、武井教使¹、土屋賢治¹

1) 浜松医科大学子どもこころの発達研究センター

【背景・目的】

乳幼児期における子どもの言語スキルの発達は、両親のほか、保健・医療関係者の大きな関心事である。言語スキルの発達には様々な促進因子や阻害因子があることが知られており、例えば母親の高年齢は促進因子の一つとして知られている。一方、ジェスチャーや模倣などの前コミュニケーションスキルの発達が言語発達に先行することが知られており、その発達は言語発達と強い関連がある。しかし、前コミュニケーションスキルの発達の背景因、すなわち促進因子や阻害因子はよくわかっていない。本研究では、14 カ月齢児の前コミュニケーションスキルの発達を規定する背景因（促進因子・阻害因子）を探索し、言語発達の背景因との異同について検討した。

【対象・方法】

出生直後より HBC Study に参加した 951 名を 14 カ月齢まで追跡した。前コミュニケーションスキルを規定すると想定される背景因として、父親・母親の年齢、父親・母親の教育歴、世帯年収、出生時在胎週数、児の同胞順位の情報を収集した。14 カ月齢における児の前コミュニケーションスキルは、MacArthur-Bates Communicative Inventories (Fenson et al., 1993) 日本語版によって測定した。測定内容は、原版の指定に従い、前期スキル（指差しやバイバイなどのスキル）および後期スキル（大人の行為の模倣、人形遊びなどのスキル）に分けて集計し、z-score 化した。それぞれの背景因と前期スキル・後期スキルの関連を重回帰分析により検討した。

【結果】

前期コミュニケーションスキルは母親の年齢、教育歴、世帯年収と関連を示し、またこれら 3 つが互いに強い交互作用を示した。さらに、母親の若年齢・低教育歴・高収入、または母親の若年齢・高教育歴・低収入の組み合わせによっておよそ+0.5SD 以上のスキル上昇効果が見られた一方、母親の高年齢・高教育歴・低収入の組み合わせによっておよそ-0.5SD のスキル低下効果が見られた。後期コミュニケーションスキルは母親の年齢・教育歴と負の関連を示し、交互作用は見られなかった。

【結論】

前コミュニケーションスキルの発達は、前期スキル・後期スキルいずれにおいても、母親の年齢と教育歴が重要な決定因となっていた。またその効果は、言語スキルの発達にもたらす効果と異なっていた。